

授業科目(ナンバリング)	社会科公民科教育法 (QB322)		担当教員 担当形態		木村 勝彦 単独				
教員免許状取得のための選択の別	社会(中):必修	単位数	2単位	開講 年次	3年	展開 方法	講義	開設 時期	前期
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会)								
各科目に含める ことが必要な事項	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)								
授業のねらい								アクティブ ラーニング の 類 型	
中学校社会科の学習指導要領解説を基に、講義・模擬授業・授業評価の議論等を通じて、標記科目で修得すべき生徒の資質・能力である知識・理解・技能・思考・表現力、態度・志向性の在り方等の指導目標、内容、方法、評価の方法を身に付ける。								②④⑧⑩	
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法		評価比率	
専門力	社会科公民科の内容や考え方を社会科学の成果等から推論し、伝える能力を身に付ける。					教材開発 模擬授業 試験		10% 10% 30%	
情報収集、 分析力	適切な新聞・メディア等から教材研究に必要な情報・知識を獲得し、的確に分析する。					教材開発		10%	
コミュニケーション力	生徒との適切な会話の力を身に付けるとともに、協働して活動する学習方法の指導の基礎を身に付ける。					模擬授業		10%	
協働・課題解決力	授業づくり、学習指導案作りで、班単位で活動し、協働して指導に必要な学習上の課題を解決する手法を身に付ける。					模擬授業 学習指導案		10% 10%	
多様性理解力	人間と社会に関する見方や考え方を、多様な社会科学の知見から総合する思考方法を修得する。					討議活動		10%	
出 席						受験要件			
合 計						100%			
評価基準及び評価手段・方法の補足説明									
評価は、授業への参加と課題への回答、随時課題による試験等を総合して行う。またフィードバックは課題提示で適宜行う。									
授 業 の 概 要									
<p>中学校の社会科の教員として指導を行うために知るべきこと、実践力として身に付けるべきことを、学習指導要領とその解説・教科書・模擬授業・審議会の議論・教育学や心理学の理論や知見等を教材とし適宜利用して指導するとともに、合わせて実際に学習者の置かれた状況を基に教科の指導の在り方を議論して、社会参画の在り方や協働して国家及び社会の有為な形成者としての資質・能力を、この教科・科目で指導することの意義をしっかりと考えさせる。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は180分とする。また教材・課題を適宜提示し、それについての疑問等に対応して理解を深める。</p>									
教 科 書 ・ 参 考 書									
<p>教科書:文部科学省『中学校学習指導要領』、文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会』</p> <p>文部科学省『高等学校学習指導要領』、文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民』</p> <p>指定図書:文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会』、文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民』</p>									
授業外における学修及び学生に期待すること									
社会や人間についての見方・考え方の指導では、日常での知識収集や判断の積み重ねが大切である。そのためマスメディア等へのアクセスの外、ニュース等での課題や紛争への感受性を、日常の生活で磨いてほしい。									

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	社会科公民科の歴史的・現代的理解	これまでの社会科公民科を、歴史的展開過程からとらえる。また新学習指導要領での改定を整理する。	予習：教育原理の既有知識の整理 復習：教科の現在を知る
2	教科の固有性・意義の理解	中学校社会科の意義と重要性を、理解し、学習指導の前提を理解する。	予習：新学習指導要領を読む 復習：教科の本質を整理
3	学習内容の構造的理解(1)	社会科公民科の内容の特質を各分野・科目の整理と分類から構造的に理解する(1)。	予習：中学時代の教科書を改めて読む 復習：伝えるべき内容の基本の理解
4	学習内容の構造的理解(2)	社会科公民科の内容の特質を各分野・科目の整理と分類から構造的に理解する。また、発展的な内容についても理解する。	予習：中学校の教科書等を読み、特色を知る 復習：伝えるべき内容の理解
5	中学校社会科の基本理解(1)	中学校社会科「公民的分野」の意義・目標と育成すべき「見方・考え方」とらえる。	予習：学習指導要領の整理 復習：生徒の実態等から内容を分析できる
6	中学校社会科の基本理解(2)	中学校社会科「公民的分野」の内容・方法・評価を実践的にとらえる。	予習：指導案作りの構想を練る 復習：適切に内容の構造化を図る
7	中学校社会科の基本理解(3)	中学校社会科の基本理解(1)(2)を受けて、中学校社会科「公民的分野」の実践を考える。	予習：中学校の教科書を読み、実践を考える 復習：伝えるべき内容の精選を考える
8	高等学校公民科の内容との関連	高等学校公民科の各科目の内容・方法・評価の基本的構造を理解する。	予習：指導案作りの構想を練る 復習：適切に内容の構造化を図る
9	模擬授業(1)	情報機器の効果的な活用も検討しながら中学校公民的分野の教材開発を行う。受講者を2班に分け、1班が模擬授業を行う。	予習：指導案作り 復習：授業の反省
10	模擬授業(2)	情報機器の効果的な活用も検討しながら中学校公民的分野の教材開発を行う。受講者を2班に分け、2班が模擬授業を行う。	予習：指導案作り 復習：授業の反省
11	授業分析・評価	模擬授業の実験事例をとりあげ、授業評価の手法の基礎を理解する。	予習：模擬授業の省察 復習：評価の構造的整理
12	新学習指導要領の基本の理解(1)	主体的・対話的で深い学びの意義を、中学校社会公民的分野から考える。	予習：中学校の実態を事前整理 復習：適切な対応を教科として検討する
13	新学習指導要領の基本の理解(2)	見方・考え方を視点として展開される「公共」「倫理」「政治・経済」の現代的価値を考える。	予習：中学校の実態を事前整理 復習：適切な対応を教科として検討する
14	社会科公民科と他教科・科目との関係性の理解	道徳との関係が深いため、公民的分野と「公共」「倫理」の関係の基本を理解する。	予習：価値問題の整理 復習：価値への接近を考察する
15	まとめ	これまでの内容の整理を行いつつ、法教育の授業の意義を現代社会から理解する。	予習：法教材の整理 復習：法教材の開発
16	試験	社会科公民科に関する基礎知識、理解程度を問う。	授業の復習